

＜第13回 江戸川区景観まちづくり賞：総評＞

今回、第13回目を迎える景観まちづくり賞ですが、まちなみ建築部門からは7点の応募があり、1点が受賞、まちづくり活動部門からは4点の応募があり、1点が受賞という結果となりました。

「まちなみ建築部門」の内訳は、共同住宅5件(内1件は外壁塗装を主とする大規模改修)、共同住宅と保育園を一体化した事例1件、病院1件という構成でした。

優れた景観として重視したい点は、建物の形状や色彩といった外観の印象に加えて、その建物が提供する周辺環境への何らかの貢献面です。そんな観点から、今回は「ローレルコート瑞江エアリーステージ」を選出いたしました。

本作品の特徴としては、高層棟の足元に低層棟を巡らせることで周囲への圧迫感を和らげている点、道路からも見える屋上緑化によって地域へ潤いをもたらしてくれる点があげられます。また、近隣へ開かれたベンチと高木のあるエントランス周りは、ガラス張りのラウンジと相まって「街との一体感を創出しようとする」意識が強く感じられます。

なお、立体駐車設備を囲むルーバー状の壁は、樹木と共に効果的な目隠しとなっていますが、いくぶん閉鎖的な印象でもあり、ルーバー間の隙間を少し広げることによって開放感が増し、周囲にも溶け込み易い存在になり得ると思われます。

「まちなみ活動部門」については、活動の年数や頻度、参加人数や地域の方々との関わりという点から、「宇喜田公園ハーブボランティア」を選出いたしました。

ハーブ花壇の維持・管理と自前のハーブ育成によって花壇の草花が増え、潤いある景観が生まれるとともに、それを見に訪れる人々の賑わいによってさらに豊かな景観へと膨らみます。また、収穫されたラベンダーを散策者や地域施設へ配布することによって、「地域力」の醸成にも大きく寄与すると思われます。

これらの活動内容のほか、年間100日におよぶ活動頻度や7年近い継続性も評価対象に含んでいますが、新型コロナウイルス感染症の拡大によってしばらく自粛が続いたハーブ茶の試飲体験会の開催など、地域とのさらなる交流の向上に期待したいと思います。

今後も様々な形の景観まちづくりを通して、江戸川区の地域活性化や街並み形成に向けての取り組みが展開されることを望むとともに、多方面からの応募について大いに期待を寄せたいと思います。

江戸川区景観審議会 会長 大江 新